

# 津軽弁と仏語 語感の妙

## 弘前で太宰作品合同朗読会



### 地元サークルと留学生交流

津軽弁とフランス語、ホントに似てる？ 弘前市で活動する朗読劇サークル「津軽カタリスト」(平田成直代表)と弘前大学のフランス語サークル「Cercle Francophone」(セルクル・フランコフォンヌ)による合同朗読会が11月29日、同市御幸町にある太宰治まなびの家で開かれた。太宰作品を津軽弁とフランス語に翻訳し朗読。参加者がそれぞれの語感の妙を楽しんだ。

(福田藍至)

今回の朗読会は「弘前×フランス」プロジェクト代表で弘大人文学部の熊野真規子准教授が、同所で津軽弁の語りを聞いたことがきっかけ。留学生と地元の人々との交流を広げることと、フランス語に接する機会を増やしたいとの思いで、津軽カタリストにコラボレーションの話を持ち掛け実現した。

この日は太宰作品の中から、お伽草子より津軽弁とフランス語の聞き比べを楽しんだ朗読会

カチカチ山を題材に、両サークルのメンバーが交互に朗読。フランス語の入門講座も開き、参加者が初歩的な発音や読み方を学んだ。

同市の瀬川紀雄さん(64)は「津軽弁とフランス語は実際に聞き比べると、似てると思われる。似てると言われれば似てると思う。朗読の迫力としては津軽弁にすごさを感じ、フランス語は音楽を聴くように酔いしれた」と堪能した様子。平田代表と熊野准教授は「興味がある人はいつでも続けていきたい」と話している。

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。  
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。